



好きな仕事をするのが一番の幸せ。
GARETH KANTHER
 サンセットジャンクション・オーナー

file 03 Photos: Takashi Tawarayama Text: Nancy Fukuzaki
SUNSET JUNCTION
Los Angeles

注目度No.1エリアで
 成功する秘訣、
 教えます。
 サンセット・ジャンクション | 商業ビル |

KEY1 クリエイターが集う
 刺激的なエリア。

LAのハリウッドからクルマで10分。好きなことを仕事にしたいという夢を抱く若者たちの間で住みたい町、No.1に選ばれたことがあるシルバークレイクに誕生した「サンセットジャンクション」。単なるコンプレックスビルではなく、情報交換や社交場としての役割も果たす。



KEY2 公私共に分かり合える
 仕事仲間がいます。

「サンセットジャンクション」には、写真のレザーグッズ店のほか、花屋、チーズ専門店、スニーカー店など10軒のテナントが入る。オーナーたちは好きなことを仕事にして成功した人が多いので、同士のつながりも、プライベートでもコーヒーショップを拠点に頻りに集まる。



KEY3 地域を愛する、
 兄貴分がいます。

サンフランシスコ生まれのキャンター氏は20年間パリに住んだ後、LAに移住。ビル内にある一軒のレストランを皮切りに今ではビルのオーナーに、「今の時代、少なくなった。他人を思いやる環境があるこの土地で、地元に関わる活動を続けていきたい」と地域愛に溢れる。



楽しくなければ
 仕事じゃない!

Working Profile

Sunset Junction

創業年：2000年 / テナント：ファッション系ショップから食料品店まで10軒。オーナーのキャンター氏のオフィスもビル内にある。テナントのオーナー層：30代前半がメイン。デザイナーやアーティストなど、クリエイティブな活動をする人が多い。不況下にあってもビジネス的にも成功を収めている店が多い。アンチ・ヒルズ系の人が多く集う。



写真の3人(右からレザーグッズ店オーナー、ダニー・ディーン・デービス氏、ギャレス氏、「インテリジェンシア」のヘッドパリスタ、デヴィン・ペーディー氏)は全員、「どの項目も満点!」と、自己満足度はバツグン。

ば人生でない。人々を助けてお金は後からついて来るもの。実際、彼自身の会社はシルバークレイクの貧しい子供たちのための基金集めやチャリティイベントにも協賛している。

自らのビジネスの成功だけでなく、地域コミュニティと密接に関わり、貢献する。仕事もプライベートもバランスよく充実させる秘訣のようだ。

彼はビジネス的なノウハウはもちろんだが、シルバークレイクという場所との付き合い方もアドバイスする。その際、必ず言うのは「楽しくなければ

好きな街で、好きな仕事をする。それが実現できたら、人生はまさにパーフェクトだろう。そんな理想を目指す、アメリカの若者から熱い視線を注がれているのが、ロサンゼルス

そのシルバークレイクの一角にある「サンセットジャンクション」は町のランドマークのひとつ。いくつものテナントが店を構え、多くの人でにぎわっていると共に、情報交換の場所としても機能している。中でも

理想のライフスタイルが送れる全米憧れの街。